

マスコミ各位

平成30年7月17日（火）

沖縄県保健医療部地域保健課 結核感染症班

担 当：久高、仁平

電 話：098-866-2215

夏休みにおける感染症対策について

夏休みは外出する機会が増え、また、レジャーなど野外活動を行う方や海外へ渡航される方も多くなる時期です。夏休みを感染症にかかることなく、安全で快適に過ごすことができるよう、県内や海外で注意すべき感染症及びその予防対策について、情報提供します。

1 RSウイルス感染症

県内のRSウイルス感染症患者の状況については、平成30年6月21日付けで、第24週（6月11日～6月17日）の1医療機関あたりの報告数が県内で4.56人（定点医療機関34カ所、報告数155人）となり、2011年以降の報告数としては、最多を示したことを情報提供しました。

第27週（7月2日～7月8日）においても、県内の1医療機関あたりの報告数は4.38人（定点医療機関34カ所、報告数149人）と、患者の発生は続いております。県民の皆様におかれましては、引き続き「手洗い」や「咳エチケット」などの感染予防策を徹底していただきますようお願いいたします。

なお、第27週の保健所別定点あたり患者報告数は、北部14.00人、中部3.25人、南部3.13人、宮古6.50人、八重山1.50人、那覇市3.86人となっています。

2 レプトスピラ症

レプトスピラ症は、病原性レプトスピラを起因病原体とする感染症です。病原性レプトスピラは、ネズミやマングースなど野生動物の腎臓に潜んでおり、尿中に菌が排せつされ、それにより汚染された土壌や水と接触する際に、皮膚の傷、鼻や目の粘膜を通して感染します。ヒトからヒトへの感染はありません。

2018年第27週時点で、県内での患者発生はありませんが、本県では、主に河川でのレジャー一等の際に感染したと考えられる患者の発生が多いことから、8月、9月が発生のピークとなります。

臨床症状：頭痛、発熱（38℃以上）、筋肉痛、結膜充血。重症になると、腎機能障害、黄疸などの症状が現れ、治療しないと死に至ることもある。

潜伏期間：3～14日

治 療：ペニシリンやストレプトマイシンなどの抗生物質が有効とされている。

感染症法分類：4類感染症

【予防方法】

1. 皮膚に傷がある場合は感染しやすくなることが知られているため、河川での遊泳を控える。

2. 河川や滝などの生水はそのまま飲まない。
3. 水田、山林で作業をする場合は、長靴や手袋を使用し、土や水との直接的な接触を避ける。
4. 河川や滝、水田での水との接触後に手洗いをを行う。
5. 捕獲したネズミなど、素手での野生動物との接触をさける。

※川遊びをした後や、畑、水田、山林などで作業した後、3～14日以内に発熱、頭痛、筋肉痛などの症状がでたら、すぐに医療機関を受診し、川遊びなどの状況を伝えてください。

【注意喚起のお願い】

昨年、県では、レプトスピラ症の予防を図るため、啓発用リーフレットを作成し、関係機関へ配布をしました。マスコミの皆様もレプトスピラ症の予防等の周知について、ご協力いただきますようお願いいたします。

※チラシは、沖縄県衛生環境研究所ホームページからダウンロードができます。

<http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/eisei/leptospira.html>

【参考】レプトスピラ症発生状況



※レプトスピラ症は2003年11月に4類感染症に指定

※2017年に沖縄県以外から報告された25件のうち7件は、沖縄県での感染が考えられている

3 ダニ媒介性感染症

県内ではこれまでに「つつが虫病」、「日本紅斑熱」及び「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」の発生が確認されています。

【つつが虫病】4類感染症

つつが虫病は、つつが虫病リケッチア (*Orientia tsutsugamushi*) を起因病原体とし、山野に入り病原体を保有するダニ(ツツガムシ)に刺されて感染する。ヒトからヒトへの感染はない。

臨床症状：発熱(38℃以上)、リンパ節腫脹、発疹、刺し口。

潜伏期：5～14日

治療：テトラサイクリン系の抗生物質等による治療。一般に予後良好。

発生状況：我が国では全都道府県から患者が報告され、ここ数年は年間300～500人の患者が毎年報告されている。

県内では宮古保健所管内において発生がみられ、これまでの発生時期は4～7月及び9～12月。2018年は第27週時点で報告はない。

【日本紅斑熱】4類感染症

日本紅斑熱は、リケッチア・ジャポニカ (*Rickettsia japonica*) を起因病原体とし、病原体を保有するマダニに刺されて感染する。ヒトからヒトへの感染はない。

臨床症状：高熱、発疹、刺し口が主要な徴候。

潜伏期：2～10日

治療：本症を早期に疑い適切な抗菌薬（テトラサイクリン系の抗生物質等）を投与することが極めて重要。

発生状況：我が国では特に太平洋側の温暖な地域にみられ、発生時期に地域差がみられるものの、全国的に春～秋の長い間注意が必要である。

県内では沖縄本島において発生がみられ、これまでの発生時期は3～4月及び11月。2018年は第27週時点で報告はない。

【重症熱性血小板減少症候群（SFTS）】4類感染症

SFTSは、SFTSウイルスを起因病原体とし、病原体を保有するマダニに刺されて感染するのが主だが、患者血液・体液との接触による感染も報告されている。

臨床症状：発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）が多く、多くの症例で認められ、その他頭痛、筋肉痛、意識障害や失語などの神経症状、リンパ節腫脹、皮下出血や下血などの出血症状など

潜伏期：6～14日

治療：対症療法。致死率は6.3～30%と報告されている。

発生状況：我が国では西日本を中心に患者が報告されている。

県内では沖縄本島において、2016年8月に県内初事例が報告されている。2018年は第27週時点で報告はない。

【予防方法】：ダニに咬まれないことが重要です。

1. 山野に入る際には、肌の露出を少なくし、防虫スプレーを適宜使用する。
2. むやみに地面に腰を下ろしたり寝転んだりしない(座る時は敷物を使う)。
3. 脱いだ服を草むらに放置しない。

4. 帰ったらすぐに入浴(シャワー)する。
5. 着用した服は使い回さず、その日で洗濯する。
6. 山林や野原に立ち入って1～2週間後に発疹や発熱の症状が現れたら、すぐに医療機関で受診する。
7. 吸血中のダニを見つけた時は、無理に取ろうとするとダニの一部が皮膚内に残る可能性があるため、できるだけ医療機関で処置を行う。

【参考】県内のダニ媒介感染症発生状況

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	合計
つつが虫病	1		1	2		1	2	4	10	5	26
日本紅斑熱			1	1	1					1	4
SFTS									1		1

※「つつが虫病」は2008年、「日本紅斑熱」は2010年、「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は2016年が県内初報告例

4 海外に行かれる方へ

海外においては、国内ではみられない感染症が、流行している地域があります。食事の前や宿泊施設へ戻った際には、必ず「手洗い」「うがい」をするとといった基本的な対策に加え、事前に現地の感染症の発生状況を調べ、下記の対策をとるようにお願いします。

1. むやみに動物にふれない。

犬や猫、その他の野生動物が感染源となる狂犬病や、ヒトコブラクダが感染源となる中東呼吸器症候群（MERS）など。

2. 防虫スプレーの使用や長袖の着用など、蚊、ダニへの対策を行う。

蚊に刺されることにより感染するデング熱やチクングニア熱、ジカウイルス感染症など。ダニに刺されることにより感染するクリミア・コンゴ出血熱など。

3. 予防接種が受けられる感染症に対しては、事前に医療機関に相談する。

麻しんや風しんなど。また、黄熱のように予防接種証明書（イエローカード）を携帯していないと入国できない国があります。

4. 生の食べ物、水は飲食しない。

A型肝炎やE型肝炎、コレラ、赤痢、腸チフスなど。

また、2018年3月には、外国から本県を訪れた観光客により麻しんが持ち込まれ、その後の県内での流行と繋がりました。帰国時に体調に不安がある方は検疫担当係官へ相談し、帰国後に体調を崩された方は、早期に医療機関を受診し、渡航先や現地での活動内容などを報告するようにしてください。

そして、国内に持ち込まれた感染症が拡大しないように、普段から、定期予防接種は必ず受ける、身の回りに蚊の発生源となるような水たまりを作らない、といった対策もお願いします。

5 県内外の感染症情報について

厚生労働省「夏休みにおける海外での感染症予防について」

[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/travel-kanse
nshou.html](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/travel-kanse
nshou.html)

厚生労働省検疫所 <http://www.forth.go.jp/>

国立感染症研究所感染症疫学センター <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>

沖縄県感染症情報センター

<http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjouhou/home.html>